

SHIRAKOBATO

# しらこぼと



1996. 5

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 145

日本野鳥の会 埼玉県支部

# 埼玉県支部についてのQ&A

## 第3回

第1回(95年6月号)「支部の歴史」、第2回(95年8月号)「支部の組織」と進んできたQ & Aシリーズは、いよいよ「本部と支部の関係」について!! なんてビックリマークを2ヶもつけるほどのものでもないんですけどね、まあ読んでみてください。

支部と本部は、どういう関係になっていますか。

日本野鳥の会は、96年4月1日現在、全国に86の支部があり、会員数は49,631人です。(日付けが嘘っぽいけど、本当の数字です)。いわゆる本部と呼ばれる組織は財団法人になっていて、都内渋谷区に事務局があり、全国のサンクチュアリのレンジャーやアルバイトなども含めると、約100人が働いています。

一方、支部は、各地の会員たちが集まっている任意団体です。支部会員たちの会費をもとに、ボランティアによって運営されています。本部から人を派遣されているわけでも、運営費をもらっているわけでもありません。それぞれ独立しています。

支部によっては専従職員がいるところもありますが、支部長をはじめとする支部役員たちは、どこの支部でも皆ボランティアです。それぞれの生活の忙しい時間を割き、まったくの手弁当で、全国の仲間が努力を続けているのです。

本部支部といっても上下の関係ではなく、本部から支部に対する指令とか、指示、指導などはありません。本部としては、世界につながる日本全体の自然保護について考え、実行に移します。支部は各地域を担当して、強制されることはなく、その方針に協力できるところで協力します。

Q & A第1回でご紹介しました通り、埼玉県支部の目的は、野鳥の会の理念と一致しています。全国のほかの支部も、もともと野鳥の会の理念に賛同した人たちが集まったものですから、密接に協力し合う立場にあるわけです。

本部の意思決定のプロセスとしては、財団法人の寄付行為(国の憲法や会社の定款に当たるものを財団法人では「寄付行為」といいます)で、理事会と評議員会というものが決

められています。

理事会は、最高意思決定機関ですが、全国の各ブロックから選出されて、支部の代表者が参加することができます。筆者が1期3年間理事をつとめたこともあります。

評議員は、各支部から1名ずつ出て、理事を選出したり、理事会の業務執行について意見を述べます。埼玉県支部は、松井昭吾支部長が評議員をつとめていた事もありますが、現在は筆者が担当しています。

また、楠見邦博支部監事が今年度から本部の監事にも就任したことは、先月号でお知らせした通りです。支部と本部は、このように制度の面でも密接な関係にあります。

会員制度の上での支部と本部の関係はどうなっているのですか。

全国の支部によっては、会員制度が本部と一本化されていない支部もありますが、埼玉県支部の場合は、ジュニア会員を除いて、本部と一本化されています。正会員・普通会員ともに、支部の会員であると同時に、本部の会員でもあります。本部誌『野鳥』を購読するかどうかの違いだけで、『野鳥』は購読せず『しらこぼと』だけを読んでいる人でも、本部会員であることは違いありません。したがって、それぞれの家族も、同じ立場で本部の会員なのです。

ジュニア会員は、支部だけの会員です。現在本部にはジュニア会員の制度がないので、支部だけの制度として運営しています。ですから、本部のコンピューターには登録されません。ジュニア会員が高校生になった時は、あらためて正会員または普通会員として入会しなければならないのですが、中学生以下の年齢でも、正会員または普通会員として入会もできます。

そのほかの支部独自の会員制度としては、支部賛助会員というものもあります。これは

特に支部活動を賛助するために、ほかより年間8,000円多い会費を払っていただくだけで、特典は別にないという制度です。いわば定期的な寄付金のようなものですが、現在は事務管理が難しいものですから、ほとんど機能していません。

一方、本部を特に資金面で支援する特別会員というものもあります。年会費12,000円ですが、そのうち支部会費の分は、正会員や普通会員と同じです。

正会員からジュニア会員までの種別と年会費などは次のとおりです。

正会員 入会金500円 年会費7,000円(本部の分5,000円、支部の分2,000円) 『野鳥』と『しらこぼと』両方を購読

普通会員 入会金500円 年会費2,500円(本部の分500円、支部の分2,000円) 『しらこぼと』だけを購読

家族会員 入会金500円 年会費500円(本部の分500円、支部の分なし) 正会員または普通会員の家族

ジュニア会員 入会金なし 年会費1,000円 『しらこぼと』だけを購読

例えば96年4月1日現在の埼玉県支部の会員は次の通りです。

個人特別会員	92人
正会員	1,632人
普通会員	320人
家族会員	665人
ジュニア会員	10人
合計	2,719人

全国の支部は、どのように運営されているのですか。

栃木県支部が世話役となって全国の支部に対するアンケート調査が行われ、結果が「支部現況調査1995」としてまとめられました。それによれば、埼玉県支部のように専用事務所を設けているところは少なく、支部長や事務局長の自宅を支部事務局にしているところが多く見かけられます。

専従職員のいるところは、札幌・栃木県・群馬県・東京・神奈川・大阪の6支部だけです。埼玉県支部にはいません。

これだけでも、ほとんどが草の根のボランティアで運営されていることがわかると思い

ます。日本最大のNGO自然保護団体といひながら、全国の支部は思ったより弱体であるとも言えますし、逆にそれが日本野鳥の会の特徴であり、自発的な意思による市民活動の積み重なりであるが故に、何者にも影響されないねばり強さにつながるのだとも言えると思います。

ついでに、いくつかの数字を見てみましょう。(1995年4月1日現在)

[会員数] 1位東京5,833人、2位神奈川3,326人、3位大阪2,776人、4位埼玉2,643人……回答支部の内最少は、二本松支部41人

[支部報発行回数] 12回以上21支部……6回以下34支部(0回も含む)

[年間探鳥会回数] 100回以上9支部……19回以下14支部

[役員会開催頻度] 13回以上4支部……4回以下15支部

[リーダー数] 80人以上2支部……19人以下31支部

一口に「支部」といっても、ずいぶん幅があることがおわかり頂けると思います。埼玉県支部は、「～以上、～以下」と書いてある項目では「～以上」のほうに含まれます。

別な資料によれば、支部の分の会費額も様々で、最高は東京支部の3,500円、次が神奈川県支部3,300円。3,000円が8支部、2,500円が13支部、2,000円が一番多くて、埼玉県支部も含めて44支部です。1,000円も11支部、500円も1支部あります。

このように規模や内容が様々な全国の支部と本部との関係について、支部の独自性を尊重しながら、全国ひとつの組織体として有効に機能し続けるために、今後いろいろ考えていかなければならないこともあります。

書き始めたら、やっぱりかたい文章になってしまいました。根がまじめなもので、お許してください。……許されなくても、また書きますけどね。支部事務局がどのように運営されているか、会員たちがどのようにすれば支部活動ボランティアに参加できるか、とか。

ご質問もお待ちしています。

海老原美夫(別名:生きてる化石、昔から副支部長・53歳・浦和市)

# 1996年ガン・カモ・ハクチョウ類調査報告

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

1月15日、県内一斉ガン・カモ・ハクチョウ類調査が実施されました。当日は低気圧が日本の北部を通過し、朝方は曇ったものの快晴無風の絶好の調査日和となりました。今年は狭山湖については会員の方々の参加を頂き、一部地区は調査員をお願いし、他の会員の方々からのご報告を含め、県内で18ヶ所、33名の方の御協力を得ました。

調査地毎の1996年カウント結果と最近10年間の合計値の推移(表)と1982年からの県内集計数の推移(図)を示します。今年は調査が始まって以来の最低値となりました。図において、1989年新たに完成した渡良瀬遊水池・貯水池を除いた最近4年間の継続調査地を対象とした集計値は、今年は昨年にくらべてさらに減少していますが、長期的にはほぼよこばい状態のようです。渡良瀬を含めた県内全集計値は昨年に比べて大幅に減少していますが、調査地点の変動の影響を除くため最

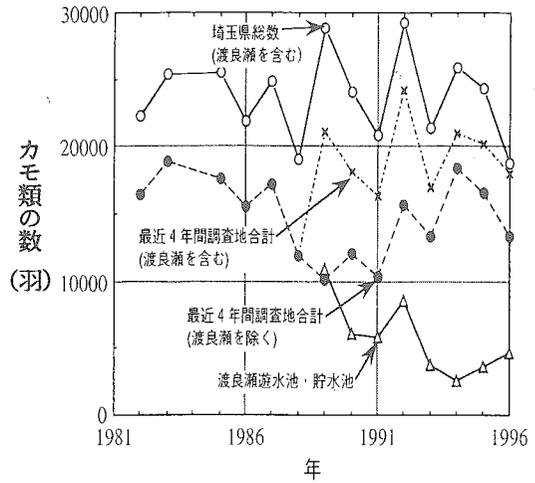


図 カモ類の合計値の年変化

近4年間の継続調査地について比較した場合は、やはりよこばいの傾向を示しています。調査に参加いただいた皆様、ありがとうございました。(執筆 三田長久)

表 1996年カウント結果と最近10年間の合計値の推移

調査地	荒川				古利根川	利根川	渡良瀬川	狭山湖	小群川 調整池	新河岸川	百穴湖	
調査範囲	豊水橋～ 新富士見 橋	荒川鉄橋 ～戸田橋 (池)	道満(荒川 第一調整 池)	秋ヶ瀬橋 ～ 羽根倉橋	荒川大橋 ～ 明戸せき	寿橋～ 堂面橋	坂東大橋 下流	遊水池 貯水池	湖全部	池全部	川崎橋～ 豊橋	大沼
地域	狭山市	川口市 戸田市	戸田市	浦和市	江南町 熊谷市	越谷市 松伏町	本川市 北川辺町	所沢市	川越市	川越市	吉見町	
コハクチョウ					113							
オンドリ												
マガモ			122	18	486		376	1,775	250	17	30	125
カルガモ	50	10	104	8	98	108	131	1,837	48	6	104	
コガモ	71	82	246	8	475	70	378	592	211	51	89	5
トモエガモ					1		3					
ヨシガモ			1				4				1	
オカヨシガモ			77		102		38	4				
ヒドリガモ		118	401		22	607	23	246		95	385	
アメリカヒドリ											1	
オナガガモ	23	119	143	16	1,230	217	224	46		236	163	
ハシビロガモ	5		41		4		5	21				145
ホシハジロ	8	131	330	19	37		32	19		1	2	59
アカハジロ												
キンクロハジロ	23	4	70				1	18	20			7
スズガモ							3					
ホオジロガモ			2						2			
ミコアイサ			41					19				
カワアイサ							21	31				
カモSSP												
種類 合計	6	6	12	5	10	5	13	11	5	6	8	5
調査者数	180	464	1,578	69	2,568	1,010	1,239	4,608	531	406	775	341
1986年合計	—	955	—	1,317	37	—	1,763	—	2,955	—	—	2,131
1987年合計	—	741	—	500	24	729	3,210	—	3,170	—	—	2,048
1988年合計	—	712	—	543	457	718	3,483	—	1,692	—	—	965
1989年合計	589	467	—	625	162	469	3,148	10,890	664	—	—	627
1990年合計	332	930	—	305	—	638	1,400	6,110	1,071	702	—	1,453
1991年合計	433	227	1,019	28	772	497	2,136	5,879	1,132	—	—	486
1992年合計	250	1,045	966	98	1,713	605	2,367	8,486	861	716	—	1,276
1993年合計	170	750	1,270	135	1,889	585	1,275	3,713	528	396	—	676
1994年合計	228	415	1,467	141	1,267	2,006	2,150	2,578	848	659	—	1,179
1995年合計	168	338	1,055	408	1,576	1,191	1,359	3,631	745	483	1,007	299

## 鳥の目から環境を調べよう(夏鳥)!

日本野鳥の会埼玉支部研究部

本調査は6月号に同封する調査はがきに、5月10日から7月10日まで会員諸氏が自宅から半径50m以内で確認(姿、声、上空通過)された鳥を、確認方法を含め記入、郵送することにより行われます。

高層住宅、1~2回建て住宅、商業、工場、農業(畑)、農業(田)、林業の各地区区分と、細かな環境と鳥の関係を調べますので、自宅から半径50m以内の様子を調査はがきに忘れずにご記入ください。

近年、人の住む環境に生息する鳥も様変わりしつつあります。本調査は人の住む環境の変化を鳥の目から見て、人と鳥の関係を調べて行こうとするものです。御自宅のできる調査ですので先回と同様、積極的な参加をお願いします。(小荷田行男)

武蔵丘陵 森林公園	大沼公園	県立 農林公園	さきたま 古墳	白鷺沼	柳瀬川	1996.1.15 埼玉県 支部
山田大沼 など	大沼	芳沼		沼全部	富士見橋 栄橋	総合計
滑川町	江南町	川本町	行田市	浦和市	富士見市 志木市	
2	12	238	826		7	113
1,543	20	82	96		66	2
253		195	162	14	248	5,825
74						3,021
	14	4				2,971
	4					4
	4	169	56	4	174	6
2	8	39			4	239
10		175			9	2,257
		38		1	21	1
						1
						3
						4
						60
						52
						2
						2
7	6	8	4	3	8	19
1,888	62	940	1,140	19	887	18,705
2	2	2	1	1	4	33
6,418	-	-	-	-	-	21,838
6,814	-	-	-	-	-	24,866
3,367	-	-	-	-	-	18,992
3,375	-	-	-	-	-	28,839
4,900	-	-	-	234	-	24,007
2,786	230	556	-	51	-	20,779
4,590	225	-	-	80	877	29,248
2,899	113	1,023	872	74	632	21,291
4,029	232	1,634	1,229	66	823	25,859
4,877	73	2,367	874	60	714	24,316

## 地鳴きコーナー

ツミとの出会い

浅見健一(大宮市)

2月10日、我家付近の林での出来事。林入口にて、カケス6羽がさかんに騒ぐ。

突然、獲物をぶら下げたツミが低く林内を飛行。充分距離を取り林内に入りこむ。なんと地上にてツミ♂が足で獲物を押さえ羽をむしり、体全体で少々伸び上がり赤い肉を引き千切って食事中。

時々、上空を警戒する。20分後、獲物を持ち近くの杉の枝に移動、また10分ほど食事。すぐ下の枝にシジュウカラ2羽が飛来するが互いにしらん顔。満腹したのか、嘴を枝に擦りつけた後飛び去る。

約1時間後、獲物の確認に近寄ると、なんとまた先のツミが食事中なので驚く。20分後、枝に移り、すかさずカケスが現れ獲物を下の枝に落す。ツミは悠々と知らん顔。しばらくして松の枝に移動後飛びさる。

獲物はツグミ。後頭部と背が食べられ、腹部は手つかず。食事の方法や他の鳥達との関係等、ふるえながら興味深く珍しい光景を体験出来ました。ツミと自然に感謝。(※観察場所、大宮市日進一丁目。生研構内の林) 時間、一回目8時55分~9時25分、二回目、10時30分~10時50分。

ホーホケ、ケキヨ、ケキヨ

陶山和良(浦和市)

おや、住宅の建てこんだ中の三坪半ほどの狭い我が家の庭で、初めて耳にした鶯の声。

餌台を設置して5年にもなるが、初鳴きをこんな身近なところで聞いたのは初めて。カーテン越しにソーッとのもぞいて見た瞬間、鶯と目があってしまい、あわてて身体を隠そうとしたが、彼ははずかしそうに隣の南天の木の中へ消えて行ってしまった。

下手な鳴き声ではあったが、いつまでも私の耳の中に残り、一日中うれしい気持ちにさせてくれた鶯に心からお礼を言った次第である(声を聞いた日 3月1日)。

ハジロカイツブリ ◇2月1日、戸田市の戸田橋付近の荒川で1羽。12月9日から当地で越冬していたが、この日が終認（高橋達也）。

ヨシガモ ◇2月7日、吉見町の八丁湖で♂♀各2羽（中村豊己）。◇3月19日、北川辺町の渡良瀬遊水地で♂2羽♀1羽。26日にも同地で♂3羽♀2羽（樋口）。

オカヨシガモ ◇2月15日、戸田市の彩湖で♂3羽（陶山和良）。

ミコアイサ ◇2月8日、川越市の伊佐沼で♂1羽（中司隆由）。◇2月12日、戸田市の彩湖で♂1羽（森永徳一）。

オオタカ ◇1月28日、吉見町の八丁湖付近で1羽。カラスにモビングされていた。（石井智）。◇1月28日、鴻巣市糠田排水機場で1羽（石井智）。◇2月3日、浦和市秋ヶ瀬C区で1羽（石井智）。◇2月12日、戸田市道満の外環道路の送電高架橋上空から西方に1羽飛翔する（森永徳一）。◇3月26日、北川辺町の渡良瀬遊水地で2羽（樋口）。

ツミ ◇2月10日、大宮市日進1丁目で♂1羽。獲物のツグミを食べていた（浅見健一）。

ハイタカ ◇3月28日、寄居町の鐘撞堂で幼鳥1羽（陶山和良）。

ノスリ ◇3月19日、北川辺町の渡良瀬遊水地で10羽。26日にも同地で10羽以上（樋口）。

ハイロチュウヒ ◇3月19日、北川辺町の渡良瀬遊水地で♂♀各1羽（樋口）。

ハヤブサ ◇2月12日、戸田市の彩湖西側土手から田島方面へ幼鳥1羽飛翔する（森永徳一）。

チョウゲンボウ ◇2月10日、妻沼町江波の自宅屋根でTVアンテナの調整を行っている、私の上でカラスと空中戦を展開していた（飛田茂）。◇2月12日、浦和市秋ヶ瀬の鉄橋上空で乱舞（森永徳一）。

クイナ ◇2月24日、蓮田市黒浜の上沼で1羽（玉井正晴）。

オオバン ◇2月24日、蓮田市黒浜の上沼で

1羽（玉井正晴）。◇3月4日、三郷市の江戸川、松戸有料橋付近で1羽（岩瀬和志）。

コチドリ ◇3月19日、北川辺町の渡良瀬遊水地で3羽。26日にも同地で10羽（樋口）。

イカルチドリ ◇2月19日、富士見市水子の柳瀬川左岸の田んぼで1羽（陶山和良）。

シロチドリ ◇3月26日、北川辺町の渡良瀬遊水地で2羽（樋口）。

ムナグロ ◇1月21日、大宮市三橋1丁目の鴨川脇の休耕田で3羽。移動は一緒だが、降りるとバラバラに行動する（浅見健一）。◇3月26日、北川辺町の渡良瀬遊水地で夏羽2羽（樋口）。

タゲリ ◇2月11日、戸田市道満の彩湖管理橋東側のグラウンドで7羽（森秀夫他3名）。◇2月12日、飯能市の宮沢湖東側のダム下の畑で2羽（滝田美恵子）。◇3月19日、北川辺町の渡良瀬遊水地で7羽（樋口）。

タカブシギ ◇3月19日、北川辺町の渡良瀬遊水地で1羽（樋口）。

ハマシギ ◇3月26日、北川辺町の渡良瀬遊水地で25羽（樋口）。

タシギ ◇3月26日、北川辺町の渡良瀬遊水地で7羽（樋口）。

セグロカモメ ◇1月4日、大宮市三橋1丁目で4羽。水量の少ない鴨川干潟に打ち上がっている大きなフナをつつく（浅見健一）。◇3月26日、北川辺町の渡良瀬遊水地で2羽（樋口）。

シロカモメ ◇3月19日、戸田市の彩湖で成鳥冬羽1羽（高橋達也）。

アマツバメ ◇3月19日、北川辺町の渡良瀬遊水地で1羽（樋口）。

カワセミ ◇2月21日、浦和市の霧敷川下流で1羽（陶山和良）。◇3月28日、寄居町の円良田湖で1羽（陶山和良）。

アリスイ ◇2月12日、飯能市の宮沢湖東側のダム下の畑で1羽（滝田美恵子）。

アオゲラ ◇2月25日、深谷市の仙元山で2羽（村岡浩）。

アカゲラ ◇2月20日、東松山市大谷の自宅前の栗の木で♀1羽。今期どこに行っても会えなかったのに、まさか我が家まで出張してくれるとは（中村豊己）。◇2月

24日、蓮田市江ヶ崎の雑木林で♂1羽。さかんにドラミングをくり返していた(玉井正晴)。

ヒバリ ◇3月1日、小川町富士見の前で1羽。高く上がりながら鳴く(林やお子)。

ビンズイ ◇2月25日、深谷市の仙元山で2羽(村岡浩)。

ルリビタキ ◇2月7日、吉見町の八丁湖周回遊歩道で♀2羽。10日にも同地で♂1羽♀2羽。遊歩道の上で何かついばんでいたが、♂はシロハラに追われて茂みに逃げ込む(中村豊己)。

シロハラ ◇2月10日、大宮市日進1丁目<sup>で</sup>♀2羽(浅見健一)。◇3月10日、蓮田市黒浜の国立療養所東埼玉病院の林で1羽(玉井正晴)。3月19日、戸田市道満の釣り堀横の林で1羽(高橋達也)。

ウグイス(初鳴き) ◇3月1日、浦和市曲本の自宅庭でさえずりを聞く。下手な鳴き声ではあったが、いつまでも耳の中に残り、一日中うれしい気持ちにさせてくれた(陶山和良)。◇3月18日、浦和市の白幡沼横の藪で(海老原美夫)。◇3月20日秩父市の羊山公園で(羊山公園探鳥会参加者)。

ツリスガラ 3月25日、浦和市の荒川、秋ヶ瀬取水堰の少し上流の葦原で約20羽。柳の木の新芽を食べていた。同じ木で、ウグイス2羽、アオジ1羽、ヒヨドリ1羽も新芽を採餌。鳥たちの春のサラダレストラン(海老原美夫)。

ミヤマホオジロ ◇2月7日、吉見町の八丁湖周回遊歩道の最奥地点付近で♀1羽(中村豊己)。

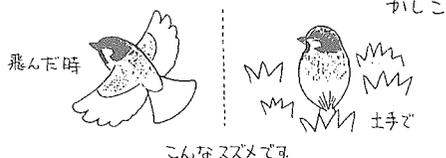
コジュリン ◇2月4日、戸田市の戸田橋付近の荒川河川敷で♂♀各1羽(高橋達也)。

前略

3月24日の午後、富士見市の富士見江川、赤橋〜うずら橋間で、スズメの部分白変個体を見ました。腰のあたりと尾羽と、風切羽が全部うすい茶色のスズメです。土手で10羽位が群れている中に1羽混じっていました。突然変異の鳥を見たのは初めてでした。白変でなくて汚れたスズメだったら…と、ちよと心配です。

「しろこぼと」4月号の編集後記を読みました。また何かありましたら、お知らせしたいと思います。

思います。



(入沢 直子)

ベニマシコ ◇3月26日、北川辺町の渡良瀬遊水地で♂♀各1羽(樋口)。

イカル ◇3月13日午前6時30分、大宮市寿能町2丁目の産業道路から大宮第2公園へ向かう遊歩道で1羽。愛犬を連れて、朝の散歩をしていると、聞きなれないグゼリ声。周りを見回すと、イマシタ!すぐ近くのハナミズキの枝に、黒い頭と明るい灰色の腹、鮮やかな黄色の大きなクチバシ。

「早起きは三文の得」でした(浅見徹)。

カケス ◇2月25日、深谷市の仙元山神社西側で3羽(村岡浩)。

### 表紙の写真

#### コヨシキリ(ヒタキ科ウグイス亜科)

コヨシキリも、オオヨシキリと同じくカッコウに托卵されます。

ヨシキリたちは、どうしてカッコウのひなを育てるのか、不思議です。途中で気がついたら、やめてしまえばいいと思うのですが、

そこにはなにかに人間にはわからない母性本能みたいなものがあるのでしょうか。

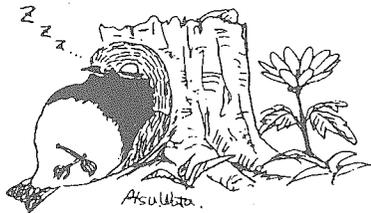
1995年6月 渡良瀬遊水地にて

500mm+1.4Xエクステンダー PRDP II

1/250

宇恵昭良(草加市)

# 行事あんない



(渡辺 敦)

特別な場合を除いて予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。小雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなどをご利用のうえ、指定の集合場所までおいでください。

## 大田市 坂東大森探鳥会

### 千葉県習志野市 谷津干潟探鳥会

◆ 上記の行事は共に5月5日(日・祝)です。詳細は4月号をご覧ください。

## 浦和市 秋ヶ瀬公園平日探鳥会

期日：5月10日(金)  
集合：午後8時 JR浦和駅西口バスロータリー 集合後バスで現地へ、または午前8時45分ピクニックの森駐車場  
担当：松井、桜庭、新堂、中村(栄)、佐藤  
解散：午後2時頃  
見どころ：久しぶりの平日探鳥会! 新緑の秋ヶ瀬公園、渡りの途中のオオルリ、キビタキなど大いに期待いたしましょう。お弁当持参で優雅にのんびりとまさにピクニック気分どうぞ!  
平日探鳥会のテストケースです。

## 蓮田市 黒漆沼探鳥会

期日：5月11日(土)  
集合：午後8時45分 JR宇都宮線蓮田駅東口バス停前  
担当：中島(康)、吉安、中村(栄)、浅田、玉井  
見どころ：青葉若葉のすがすがしい季節! たんぼの畦道を歩きながら、キアシシギ、タカブシギ、チュウシャクシギなどを探します。

## 長野県 白馬山麓探鳥会(栗が沢)

期日：5月11日(土)~12日(日)  
定員に達しましたので締め切りました。

## 熊谷市 大麻生定例探鳥会

期日：5月12日(日)  
集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前  
交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居9:03発に乗車  
担当：中島(康)、榎本、田口、中島(章)、和田、石井(博司)、倉崎  
見どころ：暦の上では初夏にはちょっと早いけれど、夏鳥で賑わい始める5月です。コチドリ、コアジサシ、オオヨシキリ、セッカ、それに緑の風に乗せて聞こえてくるカッコウ等で賑わいをみせます。

## 上尾市 丸山公園探鳥会

期日：5月12日(日)  
集合：午前7時30分 丸山公園北口駐車場  
交通：JR高崎線上尾駅西口4番バス乗場より西上尾車庫(畦吉経由)行き7:07発に乗車「前原」下車、徒歩約10分  
解散：午前11時ごろ  
担当：乗田、阿久沢、浅見(健)、浅見(徹)丹  
見どころ：あちこちで木の花が咲く。花は葉にさきがけたり、葉と同時だったりして。朝早い青葉の丸山公園や風わたる荒川沿いを歩いてみませんか。

### 東京都 伊勢崎線 春日部駅

期日：5月17日（金）～19日（日）  
定員に達しましたので締め切りました。

### 栃木県 日光駅

期日：5月18日（土）  
集合：午前9時20分東武日光駅前、湯元行きバス停前（集合後バスで現地へ）  
交通：東武伊勢崎線春日部7:42発（快速）日光行に乘車。乗車券は「日光フリー切符」が便利でお得。  
解散：午後3時半ごろ、赤沼にて  
担当：中島（康）、福井、桜庭  
見どころ：湯の湖から赤沼まで、戦場ヶ原を新緑の風を受けながら歩きます。コサメビタキ、キビタキ、ホオアカ、ノビタキなどが楽しめます。

### 浦和市 三ツ川地区 刈穂公園

期日：5月19日（日）  
集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東口（集合後バスで現地へ）。または午前9時 浦和市立郷土博物館前  
後援：浦和市立郷土博物館  
担当：楠見、福井、渡辺（周）、手塚、伊藤、笠原、若林、倉林、岡部、兼元、嶋田、森  
見どころ：見沼たんぼに早苗が一斉に植えられて緑が広がる。たんぼが少なくなったとはいえ、たんぼは見沼の原点です。斜面林でカッコウが鳴き、芝川でキアジサシが休む。オオヨシキリのさえずりにアシの葉が揺れる。新緑の5月を楽しみに是非、三室にお出てください。

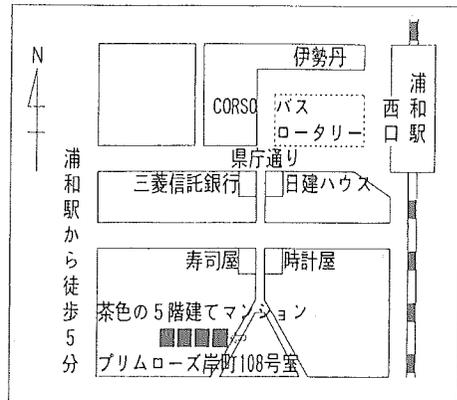
### 東京都 月形町 月形公園（芝生広場）

期日：5月25日（土）～26日（日）  
定員に達しましたので締め切りました。

### 東京都 品川区 品川公園

とき：5月25日（土）午後1時～2時ごろ  
会場：支部事務局108号室  
案内：行事が多くて、事務局の案内地図が載

せられませんでした。久しぶりの登場です。爽やかな5月こそ屋外で思いきり羽を伸ばしてリフレッシュもいいですね。でもその前にこの日のお手伝いの予定も入れて下さいね。そんな貴方に、ちゃんとしリフレッシュ用の珍鳥ビデオも用意していますよ。それにアフターはいつもの様にしましょうか？



### 茨城県 入間川 入間川公園

期日：5月26日（日）  
集合：午前9時 西武新宿線狭山市駅西口  
交通：西武新宿線本川越8:43発、所沢8:45発に乘車  
解散：正午ごろ、稲荷山公園にて  
担当：長谷部、石井（幸）、高草木、小野、中村（祐）、山本、藤掛  
見どころ：毎年様子が変わる入間川の河原。イカルチドリやイソシギ達は今年も元気に繁殖してくれるのだろうか……子育てに忙しい鳥達をそっと観察。

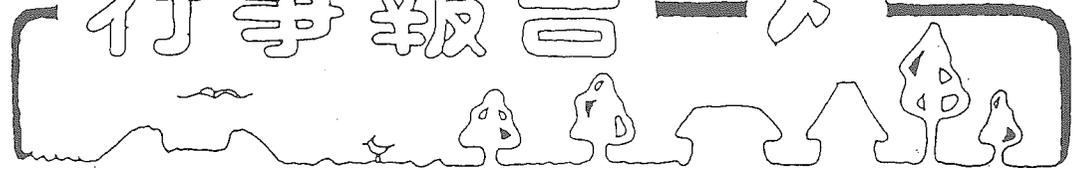
#### 行事あんないのカット

渡辺 敦（名古屋市）

ずーっと描いてなかった行事あんないのカット、5月号用の新作がようやく完成いたしました。題して『春眠暁を覚えず』。

渡来したオオルリさん、ポカポカとして気分よくなって、さえずるのも忘れてウトウト、グーグー。誰かさんみたいに飲みすぎてグーグーとは違うのですよ……。これでカットは6月号までOK！ということです。

# 行事報告



**8月27日(日) リーダー研修会**  
**会場: 北本市文化センター 参加者: 34人**

講師に本部の安西英明氏を迎え、熱心に研修会が行われました。下記の新しいリーダー6人が誕生し、各地の探鳥会で活躍しています。

浅見 徹(大宮市)、新井 巖(深谷市)、倉橋哲郎(深谷市)、志村佐治(志木市)、堀 久江(本庄市)、森 力(大宮市)。

**10月1日(日) タカの渡り調査**  
**ボランティア: 44人**

青山紀美子・信、浅見健一・良太、浅見 徹、新井 巖、荒木恒夫、石松康幸、伊藤幸子、榎本秀和・みち子、海老原美夫、岡野 強、勝山竹司・範子・司・遙、加藤武資、河島良雄、川路良子、久保田忠資、黒木昭雄、小荷田行男、斎藤比佐実、佐久間博文、須藤 弘、千葉能亢、菱沼一充、藤掛保司、古沢 紀、逸見 嶮、増尾 隆・節子、町田たか子、三田長久、宮武祥代・幹郎、森本國夫、矢木研三、山影昭三、山下雅世、吉田時規、渡辺孝雄、和田康男☺☺どうもご苦労様でした。

**10月8日(日) 浦和市 バードソン応援**  
**三室探鳥会 参加: 12人 天気: 雨**

朝からの雨で、バードソンチームは鳥が出現せず大苦戦。雨の中の三室には、数人の会員とスポンサーである俣リブランから数人の方が応援に駆けつけてくれた。バードソンチームは三室へは予定より1時間遅れで到着。オオヨシキリを確認し、53種で終了。博物館に戻り、皆様から寄せられた品物によりオークションを行ったところ10,407円の売上げとなった。会員の皆様、色々ご協力ありがとうございました。(中島康夫)

**11月11日(土) 栃木県 興日光**  
**参加: 23人 天気: 雷**

マガモ コガモ トビ ノスリ アオシギ キジバト アカゲラ コゲラ カワガラス ミソサザイ ツグミ エナガ コガラ ヒガラ シジュウ

カラ ゴジュウカラ ホオジロ カシラダカ ミヤマホオジロ マヒワ ハシボソガラス(21種) 赤沼に着いたら、戦場ヶ原は一面の雪。途中からは本格的に降り出したが、光徳方面と湯滝方面の分岐点付近で雪も止んできた。湯川沿いに歩き始めたら、ミヤマホオジロ、ミソサザイが現われた。湯川も終点に近い所で、後方から大型の鳥が飛んできて、すぐ目の前に降りた。なんとアオシギ!! 全員が観察できてラッキーだった。(中島康夫)

**11月25~26日(土~日) 新潟県 佐潟、福島潟**  
**参加: 24人 天気: 雨と晴**

カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ウミウ ダイサギ コサギ アオサギ マガン ヒシクイ オオハクチョウ コハクチョウ マガモ コガモ トモエガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ ミコアイサ カワアイサ ミサゴ トビ オオタカ ノスリ チュウヒ ハヤブサ コジュケイ キジ バン オオバン タゲリ ユリカモメ ウミネコ キジバト アカゲラ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ イソヒヨドリ ツグミ ウグイス シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス(59種) 福島潟では時々雨に降られながら野鳥観察舎の屋上から観察した。芦原を飛ぶチュウヒ、樹に止まるオオタカ、ノスリを存分に見ることができた。ここの目玉であるオオヒシクイ、五頭山をバックに飛ぶオオハクチョウなどもゆっくり楽しめた。佐潟では、カワアイサ、ミコアイサがよく見えた。(中島康夫)

**12月10日(日) 大宮市 深作川遊水池**  
**参加: 29人 天気: 晴**

カイツブリ ダイサギ コサギ マガモ カルガモ コガモ トビ ハイタカ タゲリ イソシギ タシギ キジバト ヒバリ ハクセキレイ セグ

ロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (31種) 集合地点の近くの田圃に数羽のタゲリがいて十分に見られた。アシ原では、オオジュリンがアシの茎に止まり、虫を取っていた。綾瀬川の斜面林ではアオジやカケスが見られ、上空にはハイタカの姿もあった。(中島康夫)

1月7日(日) 北川辺町 渡良瀬遊水地

参加: 42人 天気: 晴

カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オカヨシガモ ヒドリガモ アメリカヒドリ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ ミコアイサ カワアイサ トビ ノスリ チュウヒ シロチドリ ハマシギ タカブシギ セグロカモメ シラコバト キジバト ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン ベニマシコ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (45種) 風もない暖かい日で、貯水池は波一つない。カモたちはお昼寝中。そんな中でカンムリカイツブリ、ミコアイサ、カワアイサの白い鳥たちが目立った。谷田川の中州には、シロチドリ、タカブシギ、ハマシギの群れが降りていた。アシ原では、ベニマシコ、アオジ、オオジュリン等が見えた。今回は駅から歩いての探鳥会だった。(中島康夫)

1月20日(土) 栃木県 千本松

参加: 21人 天気: 曇

トビ ノスリ キジ タゲリ キジバト アオゲラ アカゲラ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ヒガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ ミヤマホオジロ アオジ カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (31種) 埼玉では雪が降っていたため参加者は少なかった。千本松は雪も止み、積雪も少なかった。牧場入口からスタート。すぐにアオゲラ、アカゲラが出迎えてくれた。枯葉の残る道にはシロハラ、シメ、カケスが降りていた。終わりに近

くなった頃、ミヤマホオジロが出現し、全員バッチリと見られ、大満足で帰路に。(中島康夫)

1月27~28日(土~日) 宮城県 伊豆沼

参加: 23人 天気: 晴

カイツブリ ダイサギ コサギ アオサギ マガン ヒシクイ オオハクチョウ コハクチョウ マガモ カルガモ コガモ トモエガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ ホオジロガモ ミコアイサ カワアイサ トビ オジロワシ ハイタカ ケアシノスリ ノスリ チュウヒ ハヤブサ コチョウゲンボウ キジバン オオバン タゲリ ツルシギ ユリカモメ キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (55種) 今年北国は寒さが厳しく、伊豆沼は全面凍結していた。マガンの朝の飛び立ちや夕方の帰着の壮大なドラマに感動した。氷上に♂♀2羽のオジロワシが並んで降りていた。内沼の氷上では、ノスリがカモを食べ、すぐ近くにはケアシノスリが降りていた。蕪栗沼では、電柱に止まるコチョウゲンボウに大感激。ビギナーの方が多く、一つ一つの鳥に感動していた。伊豆沼はすばらしい所だ。(中島康夫)

2月4日(日) 長野県 軽井沢

参加: 54人 天気: 晴

カルガモ ノスリ キジバト アオゲラ アカゲラ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ カワガラス ミソサザイ カヤクグリ ルリビタキ ジョウビタキ シロハラ ツグミ エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ アトリ カワラヒワ イカル スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (34種) 赤い鳥をお目当てに沢山の野鳥ファンが軽井沢を訪れた。残念ながら、レンジャク、ベニマシコには会えなかったが、雪を抱いた雄大な浅間山、抜けるような信州の青空、その上、イカルやカケス、アトリ達を網膜に焼き付けることができた。暖かいコーヒーをすすりながら、ホテルのロビーから鳥たちの仕草も観察できた。何はともあれ満足の日。(町田好一郎)

連絡中長

●鳥獣保護員を継続推薦

埼玉県鳥獣保護員(任期1年)として今年度も福井恒人幹事を推薦する手続きをとり、再任されました。密猟や不法飼育などの取り締まりや指導をする鳥獣保護員は、通常は担当地域が各市町村に分かれますが、野鳥の会が推薦した福井幹事は、全県を担当することができます。とはいえ1人で全県をカバーするのは難しいので、各地の環境管理事務所と連絡をとりながら、活動をしています。

●チェックリスト1996年版発行

3月号の野鳥記録委員会情報でお知らせした埼玉県野鳥チェックリスト1996年版ができました。色がブルーに変わり、今までのものと区別しやすくなっています。フィールドマナーが1ページに掲載されるなど、レイアウトも変わりました。

●学習センター意見交換会

3月16日(土)、北本市の埼玉県自然学習センターに自然保護団体などの関係者が集まり意見交換会が開催されました。当支部からは、岡安征也・吉原俊雄の両幹事が出席。自然観察公園が計画しているビオトープ事業と称するものや、雑木林の管理などについて議論が交わされました。

●ロータリークラブで卓話

3月25日(月)、武蔵野銀行与野支店で開かれた与野西ロータリークラブの例会に招かれた松井昭吾支部長は、約50人の出席者を前に、国内、海外の探鳥体験を織り混ぜて、自然保護と野鳥観察について語りました。

●前支部長の写真展

鈴木忠雄前支部長を写した写真が並んでいるわけではありません。鈴木前支部長が写した写真の第3回目の個展です。安心してご覧ください。

【期間】4月1日(月)～5月31日(金)

[会場] 群馬銀行熊谷支店

[問合せ] TEL0485-21-0702鈴木胃腸医院

●毎度おなじみの、ごめんなさいコーナー

4月号3ページ図解の「サラシの折り方」は、「折り方」の間違いです。

3月号表紙の写真は、その後の調べでゴマバラワシの若鳥とわかったそうです。下面は白く、首の両側に褐色斑があり、足は長くて足首まで羽毛に覆われているのが特徴とか。「ツアーリーダーの言うことを信じていたのに。これからはゴマかされないよう気をつけます」と、吉本さん。

●5月の事務局 土曜と日曜の予定

11日(土) 編集会議(1時から)

18日(土) 校正作業(1時から)

25日(土) 袋づめの会(1時から)

●会員数は

4月1日現在2,719人です。

活動報告

3月9日 研究会会議。

3月14日 役員リーダーに「普及部だより」発送作業(楠見文子、海老原教子)。

3月17日 役員会議(司会:菱沼一充、新年度役員体制・その他)。

3月23日 校正(石井幸男、海老原美夫)。

編集後記

ツァイスやライカなども見くらべたけれども、結局ニコンの10×42(70,000円)を買った。水面をかすめるツバメの背が紫色に輝くのに、思わず感動。今まで見た鳥を1種ずつ見直すのが楽しみだが、とりあえずは、これを持って明日コスタリカに。(海)

行事案内の担当者として、案内のカットを今月号は変えなければと思いながら、電車に乗って車内でウトウト。事務局に来たら、新作が届いていて、ホッ。カットを見て、自分のウトウトを思い出し、苦笑い。(内藤)

しらこぼと 1996年5月号(第145号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)  
発行人 松井昭吾 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460  
〒336 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 00190-3-121130  
印刷 関東図書株式会社 (本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)